支部だより

CPIJ Branch Letter

中部支部

留学生・外国人研究員交流セミナーの開催報告

中部支部では、平成 22 年 3 月 17 日（水）、(財）名古屋都市センターにおいて、同センターとの共催にて、中部地域の大学で都市計画を専攻する留学生ならびに若手外国人研究員を招き、国際交流セミナーを開催した。当日は、名古屋大学・村山顕人准教授の総合司会のもと、名城大学・福島茂教授から趣旨説明が行われ、台湾・モンゴル・カンボジア・スリランカ・ケニアからの留学生や若手研究員が自国の都市計画や現在取り組んでいる研究成果を発表した。研究報告会の進行・司会は、日本福祉大学・吉村輝彦准教授が担当した。本報告では、参加者の発表概要をまとめた。

発表者：左から Mr. Emanuel Leleito(ケニア／豊橋技術科学大学大学院)、Mr. Net Radin(カンボジア／豊橋技術科学大学大学院)、Dr. D.GJ Premakumara(スリランカ／名城大学アジア研究所)、陳周渝 氏(台湾／名古屋産業大学大学院)、Mr. Byambajav Bilguun(モンゴル／名古屋大学大学院)

1. 環境政策における首長の影響力の測定－花蓮と宜蘭の比較を通して－（陳周渝氏／台湾／名古屋産業大学大学院）

台湾東部の花蓮、宜蘭の２都市で実施した住民の環境保護意識と政策評価に対するアンケート分析結果が示された。宜蘭では首長のリーダーシップのもと環境政策に熱心に取り組み住民の環境意識も高かった。しかし、近年やや停滞傾向がみられ、新しい環境政策決定プロセスの必要性が述べられた。

2. ゲルの断熱改良・大気汚染削減対策(Mr. Byambajav Bilguun／モンゴル／名古屋大学大学院)、

モンゴル伝統の移動用住居である「ゲル」は、暖房・調理用に石炭を燃料としていることから、環境負荷が大きく、ゲルの集積地であるウランバートル市の大気汚染問題が報告された。ゲルの断熱改良実験を踏まえた、断熱材（カバー）の性能・都市環境への効果に関する研究成果が発表された。

(財)名古屋都市センターでのセミナー風景

3. プノンペンの都市計画(Mr. Net Radin／カンボジア／豊橋技術科学大学大学院)

カンボジアの首都プノンペン市の都市マスタープランの内容が報告された。プノンペンはバンコク～ホーチミンの経済成長の高いエリアに位置し、急激な人口増加に対応するためのインフラ、住宅整備が課題であることが報告された。とくに近年の都市交通問題が指摘された。

4. 災害復興におけるアセット・ベースのコミュニティ計画－スリランカにおける CLAPNET の事例研究－（Dr. D.GJ Premakumara／スリランカ／名城大学アジア研究所）

2005 年のスリランカ大津波の災害復興時にて、NGO ネットワーク（CLAPNET ; Community Livelihood Actions Program Network)が採用した、スキルやネットワークなどの住民のアセットを活かしたコミュニティ開発手法に関する事例研究が発表され、プログラムにおけるプランナーの役割が指摘された。

5. ケニア・ナイロビ市における都市計画問題（Mr. Emanuel Leleito／ケニア／豊橋技術科学大学大学院博士後期課程）

アフリカで第４の人口規模を持ち、人口流入によって最も急速な成長をみせているケニアの首都ナイロビ市における経済・社会情勢、スラム、交通混雑に対する問題が報告され、これらに対処するための都市マスタープランの重要性が指摘された。

（文責　三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング㈱　永柳　宏）